

## 高齢者支援の事業者が連携し 技術と経験で地域に貢献へ

アメイジー(株)

神奈川県横浜市を拠点に、遺品整理・

お片付け・リユースを営むアメイジー(株)は、高齢者支援を軸にしたサービスの拡充を図っている。2018年頃には、同じ地域で高齢者をサポートする事業同士をつなぐ仕組みをつくるため、取締役社長の古川めぐみ氏が、自身も所属している登録制の起業支援センター「(一社)まちなかbizあおば」の会員のうち、高齢層に必要なサービスをを行っている事業者で構成された「まちbizシニアライフサポート」を結成した。

行政の福祉部局や地域包括支援センターなどでも高齢者の支援事業が取り組まれているが、超高齢化社会の中で、介護保険が適用されないような、相続の相談や家事代行サービス、片付け・生前整理など、多様なニーズがあり、それらを民間のサービスが補う必要がある。

青葉区美しが丘のたまプラーザ駅近くでビジネス拠点を提供している、会員登録制のコミュニティ「(一社)まちな

かbizあおば」は、会員の多くが地域

密着型で活動していて、350以上の起業家や事業者、経営者が登録している。会員の中には高齢者支援への意識が強い人も多いが、個々つながりを持つことは難しい。サービスを必要としている高齢者にとっても、多くの選択肢から、自分に合ったサービスや、信頼できる事業者を探すことは大きな負担になる。

古川氏は高齢層に必要なサービスを「まちbizシニアライフサポート」を結成し、代表を務めている。資産継承・準備、老後の安心・整理、生きがい・笑顔などの分野で、事業を行っている事業者と連携をとっている。団体としての活動では月1回、イベントで、「健康測定」や「おひとり様の安心講座」など高齢者向けのテーマで講演を行っている。講演後には簡単な相談会も行っている(現在、感染症対策のため休止中)。

高齢者からのお片付け業務の依頼では、

### DATA

|     |         |
|-----|---------|
| 設立  | 2015年   |
| 代表  | 古川めぐみ   |
| 所在地 | 神奈川県横浜市 |



まちbizシニアライフサポートのメンバー

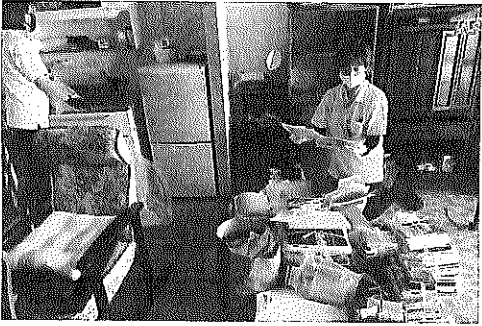
片付けをして終わりではなく、定期的な家事代行サービスが必要な人や、相続や遺言書の作成などについて相談を受けることがある。古川氏は「そのような相談に対して、自社では対応できないことも、事業者同士のつながりがあれば、信頼して紹介することができ、顧客が業者を探す負担も減らすことができます。また、地域高齢者にとっても、困りごとがあった時に相談できる、わかりやすい場所があることで、日々の生活を安心して送ることができるようです」としている。

### 女性目線の細やかなお片付け業務

古川氏は、もともと一般廃棄物収集運搬・処分を手掛ける処理業者の会社に在籍し、営業として勤務していた。当時、



「まち biz シニアライフサポート」による講演会のようす



片づけ作業のようす

家庭から排出される廃棄物や不用品の回収に合わせて、家の中からの運び出しなど、市では対応しきれない部分を含めたサービスに携り、高齢者の孤独死の現場や、ごみ屋敷となつてしまった住宅の依頼を受けることもあった。そうした経験から、ごみをため込んでしまわないように、もっと早い段階で手助けができないかと考え、片付けや収納、遺品整理について、関連セミナーを受講し、整理収納アドバイザー、遺品整理士などの民間資格を取得した。

女性目線の細やかな遺品整理やお片付けに特化した業務を行うため、2015年に「アメイジー様」を設立。遺品整理、生前整理、お片付け作業を手掛け、廃棄

量を減らすため、リユース・リサイクルできるものは買い取り、チャーターショップやフードバンクへの寄付も行っている。また、地域包括支援センターなどからの依頼で、終活支援やお片付け業務についての講演会を行っており、講演の受講者や口コミからお片付け業務の依頼が来ることが多いという。

近年は、遺品整理や孤独死の案件よりも生前整理の依頼が増えており、施設への入所前の整理や「部屋がものであふれていて、介護用ベッドの置き場がない」「1階だけで生活できるようにものを整理したい」などといった、在宅介護に関する依頼も増えている。活動エリアは、横浜市を中心に東京、埼玉、千葉などで、廃棄物の収集運搬許可を取っていないため、依頼ごとに現場地域の一般廃棄物収集運搬許可をもつ他社と連携して、廃棄物を処理している。

### 家やモノへの喪失感を解消する

一昨年から、映像として建物や庭、ものへの思いを記録する、「我が家物語」というサービスをはじめた。施設へ入所する人や、家を相続した人からお片付けの依頼があった場合、リフォームして親族が住むことはなく、家を売るか、解体

して更地にすることがほとんど。しかし、長年住んでいた家や幼少期の思い出が詰まっている家を取り壊すこと、思い出の品を捨てることに喪失感を感じる人もいる。古川氏は、このサービスを通じて、依頼者の喪失感の解消や、サービスを知った人が遺品整理・生前整理をするきっかけしてほしいという。我が家物語サービスの一環として、終活を応援する情報誌を作成し、地域の不動産会社や講習会の時などに配布している。

また、感染症対策でこれまで行っていた講演会やイベントが中止となる中、同業者向けに、整理業務の現状を伝える、「お片付けビジネスチャンネル」の動画配信に着手しているという。ここ数年、遺品整理やお片付けの新規参入業者が増加しているが、中には、仕分けや廃棄物の処理などの知識を持たないまま作業をしている業者が存在している。そうした同業者に向けて、依頼者の対応やモラル、現場作業のテクニク、お片付けに関するコンプライアンスの問題などを伝える。古川氏は、「これからもお片付けの現場作業をしつつ、これまで培ってきた技術や経験を生かし、地域貢献や新しい取り組みに挑戦していきたいです」と今後の抱負を語った。W

(本誌・上原)